

日曜

1火

2水

3木

4金

5土

6日

7月

8火

9水

10木

11金

12土

13日

14月

15火

16水

17木

18金

19土

20日

21月

22火

23水

24木

25金

26土

27日

28月

29火

30水

ふくやま書道美術館常設展示室・展示室

秋の所蔵品展 I 「茶掛けの書」

会期：2026年8月28日(金)～10月18日(日)

休館日：月曜休館 会場：常設展示室・展示室

※ 9月21日（月・祝）は開館、9月24日（木）は休館 ※10月12日（月・祝）は開館、10月13日（火）は休館

左・沢庵宗彭《撥草》

右・慈雲《円相》



展示会内容

茶席の床の装飾として掛けられる軸、すなわち茶掛けは、一期一会のその場所で亭主の思いを代弁する第一の道具とされてきました。臨済宗開祖・栄西（1141～1215）によって日本に伝えられた茶は、その後、茶の優劣を競う闘茶として武家の間で流行していきます。室町期には広間を舞台にし、中国大陸よりもたらされた美術品や茶器を用いた豪華趣味だったものが、安土桃山期には、村田珠光・武野紹鷗を経て千利休によって茶の湯の世界が大成されました。

茶掛けでは、特に禅僧による墨蹟が重用されました。禅修行の日常においては、すべての告知・伝達事項等を一切口頭せず、墨筆文書に託する宗規があるため、それらの現物は、ことごとく寺宝として、また故人は遺品として愛蔵し、長く後世への遺産としました。これら墨蹟が後に侘びの空間にふさわしい茶道第一の道具として登場し、人々の間で珍重されてきたのです。

この展示会では、建築から作庭、茶と多彩な才能を発揮した小堀遠州（1579～1647）の消息幅や、光悦流を編み出した本阿弥光悦（1558～1637）の書状、さらに、禅僧の沢庵宗彭（1573～1645）ら鎌倉から江戸時代までの墨蹟や消息・古筆切など、茶席の掛け物として喜ばれた書と陶磁器を紹介します。

大根のお漬物の「たくあん」?? 沢庵さんについてもっと知ろう!

左の《撥草》という作品、キレのある線質と開放的な間のとり方がすがすがしい印象を感じる作品ですね!さてこの作品を書いた臨済宗の僧侶・沢庵宗彭(1573-1645)は、武士の家に生まれ10歳で出家、もとは浄土宗のお坊さんで、後に臨済宗に転じました。若くして京都にある有名なお寺、大徳寺の首座に選ばれましたが、短期間で辞めてしまった話や、その後住職にもなったのですがその時はわずか3日で辞めたというお話など、名誉や地位にこだわらず禅と仏教教えを日々体得できる場所を自らの居場所とした人物でした。その人柄と教養、卓越したカリスマ性は広く知れ渡り当時の有名大名(豊臣秀頼など)からの招きも多かったようです。しかし、ここでも沢庵さんはそのオファーを受けることもなくあっさりと断り、故郷に小さなお寺を再興して隠遁生活を送られたようです。

さて江戸時代の初め、沢庵さんは紫衣事件という高僧の着物の色にいちやもんを付けた徳川秀忠に物申して流罪に遭いました。が、秀忠亡き後、息子・家光の時代になると江戸に呼び寄せられて家光の専属コンサルの役割を担うようになります。清貧を尊んだ沢庵さんが 徳川家当主、時の大將軍・家光公に出した質素できらびやかさのない大根のお漬物が、今でも日本の食卓に上る「たくあん」なのです。このさりげない一品を家光はたいそう気に入り、沢庵さんの名が大根漬けの名称になったということです。諸説あるひとつですが、名誉や地位になびかなかった沢庵さんだからこその、天下人への接待・もてなしだったのではないのでしょうか!展示会場では飲食禁止ですが沢庵さんの作品を前に大根のお漬物に想いを馳せて見るものもいかもしれませんね!

所蔵品展観覧料

一般	150円(120円)
高校生以下無料	

※()内は有料20名以上の団体料金

次の方は観覧料が無料です

■社会福祉施設に入所されている方（入館料観覧料減免申請書の提出が必要）

■福山市、府中市、神石高原町に住所を有する65歳以上の方
(運転免許証やマイナンバーカードなど、住所・年齢が確認できるものが必要)

■身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその介護者 1 名

※開館時間は午前 9 時 3 0 分から午後 5 時までです。

※月曜日【の日】は休館日です。

義

FUKUYAMA MUSEUM OF CALLIGRAPHY

ふくやま書道美術館

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
J R 福山駅福山城口(北口)から西へ約400m Tel. 084-925-9222
Webページ www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/
電子メール syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp